

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版

高精度放射線治療センター(仮称)・地域医療総合支援センター(仮称)

欄に数値またはコメントを記入

■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.38					3.2
1 音環境			3.4	0.16	-	-		3.4
1.1 騒音			4.0	0.45	-	-		
1	暗騒音レベル	遮音の必要諸室には適正な遮音壁を採用	4.0	1.00	-	-		
2	設備騒音対策		-	-	-	-		
1.2 遮音			3.0	0.37	-	-		
1	開口部遮音性能		3.0	0.54	-	-		
2	界壁遮音性能		3.0	0.46	-	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	-	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	-	-		
1.3 吸音			3.0	0.18	-	-		
2 温熱環境			3.0	0.36	-	-		3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50	-	-		
1	室温設定		3.0	0.38	-	-		
2	負荷変動・追従制御性		-	-	-	-		
3	外皮性能		3.0	0.24	-	-		
4	ゾーン別制御性		3.0	0.37	-	-		
5	温度・湿度制御		-	-	-	-		
6	個別制御		-	-	-	-		
7	時間外空調に対する配慮		-	-	-	-		
8	監視システム		-	-	-	-		
2.2 湿度制御			3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式			3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境			3.1	0.23	-	-		3.1
3.1 昼光利用			3.4	0.30	-	-		
1	昼光率		3.0	0.60	-	-		
2	方位別開口		-	-	3.0	-		
3	昼光利用設備	明るさセンサー、およびライトシェルフを設置	4.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策			3.0	0.30	-	-		
1	照明器具のグレア		-	-	-	-		
2	昼光制御		3.0	1.00	-	-		
3.3 照度			3.0	0.15	-	-		
1	照度		3.0	1.00	-	-		
2	照度均斉度		-	-	-	-		
3.4 照明制御			3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境			3.7	0.26	-	-		3.7
4.1 発生源対策			4.0	0.50	-	-		
1	化学汚染物質	仕上についてはすべてF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	-	-		
2	アスベスト対策		-	-	-	-		
3	ダニ・カビ等		-	-	-	-		
4	レジオネラ対策		-	-	-	-		
4.2 換気			3.0	0.30	-	-		
1	換気量		3.0	0.39	-	-		
2	自然換気性能		3.0	0.22	-	-		
3	取り入れ外気への配慮		3.0	0.39	-	-		
4	給気計画		-	-	-	-		
4.3 運用管理			4.2	0.20	-	-		
1	CO ₂ の監視		3.0	0.36	-	-		
2	喫煙の制御	全館禁煙にて設計	5.0	0.64	-	-		
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-		3.5
1 機能性			3.3	0.40	-	-		3.3
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.49	-	-		
1	広さ・収納性		3.0	0.21	-	-		
2	高度情報通信設備対応		3.0	0.21	3.0	-		
3	バリアフリー計画		3.0	0.57	-	-		
1.2 心理性・快適性			3.4	0.35	-	-		
1	広さ感・景観	居室天井高さ2.7m以上	4.0	0.21	-	-		
2	リフレッシュスペース	全館禁煙で、さらに光庭および、テラス等を設置	4.0	0.21	-	-		
3	内装計画		3.0	0.57	-	-		
1.3 維持管理			4.0	0.16	-	-		
1	維持管理に配慮した設計	管理方法について、建築主と協議を重ねて設計しています	4.0	0.50	-	-		
2	維持管理用機能の確保	ビルメンテナンス業者により適切に維持管理に努めます	4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性			3.8	0.31	-	-		3.8
2.1 耐震・免震			3.8	0.48	-	-		
1	耐震性	耐震ブレースの設置	4.0	0.80	-	-		
2	免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.8	0.33	-	-		
1	躯体材料の耐用年数	劣化対策等級の高い仕様にて設計	3.0	0.23	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁はタイル張りを主に設計	5.0	0.23	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクトにステンレスダクトを採用	4.0	0.08	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:塩ビライニング鋼管、排水管:鋳鉄管、硬質塩化ビニル管	5.0	0.15	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-
1	空調・換気設備	GHP(ガス)+外調機(電気)による空調	4.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用、汚水槽の設置	4.0	0.20	-	-
3	電気設備	受変電設備・非常用発電設備を屋上階に設置	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.5	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高4.0m以上	5.0	0.55	-	-
2	空間の形状・自由さ	事務室スペースは無柱にて空間的自由度が高い	4.0	0.45	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.32	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		地区計画及びまちづくりガイドラインに沿って設計	4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地区計画及びまちづくりガイドラインに沿って設計	5.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.9
1 建物の熱負荷抑制		PAL低減率:20%	4.2	0.25	-	4.2
2 自然エネルギー利用			3.0	0.22	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=32.6	5.0	0.32	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.22	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.15	-	3.4
1.1	節水	節水型機器の採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63	-	2.7
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント(マットスラブ、リニアック部躯体)	4.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-
1	消火剤		3.0	0.33	-	-
2	断熱材		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		断熱性能の高いガラスの採用による空調負荷低減	5.0	0.33	-	5.0
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減	雨水流出抑制設備を適正に計画	4.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2	風害、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-